

# 「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／自動運転（システムとサービスの拡張）／展示会等による社会的受容性の醸成効果測定に関する調査」

## 2020年度分 成果報告書

### 概要版

株式会社電通名鉄コミュニケーションズ  
株式会社住商アビーム自動車総合研究所

2021年3月

# 1) 株式会社電通名鉄コミュニケーションズ受託分

## 1. 共同研究の内容及び成果等

### (1) SIP 自動運転 成果発表会 (担当：株式会社電通名鉄コミュニケーションズ)

交通環境情報の構築と発信、仮想空間での安全性評価環境の構築、サイバーセキュリティ（侵入検知システム）の評価手法の確立、地理系データの流通ポータル構築、の4つの重点ポイントの他、信号情報、合流支援情報、車両プローブを活用した道路交通情報等の交通環境情報の構築と発信に係る技術開発、東京臨海部実証実験や中山間地域における自動運転サービスの実証実験、社会的受容性の醸成、国際連携の強化などの取り組みを紹介した。コロナ禍の中での開催となるため、会場でもオンラインでも参加できる取組を実施。また、参加者の理解を深めるためにガイドツアーを行った。これも会場参加とオンライン参加をともに募集した。



**SIP**  
未来を変える自動運転ショーケース

SIP 第2期 自動運転  
中間成果発表会  
3/25 13:00-17:00 3/26 10:00-17:00  
TFTビル西館 2F TFTホール1000

社会受容性シンポジウム  
地域自動運転リミット  
3/25 12:00-17:30  
※TFTビル西館1017号室(自動運転実証施設)  
※TFTビル西館1017号室(自動運転実証施設)  
※TFTビル西館1017号室(自動運転実証施設)  
※TFTビル西館1017号室(自動運転実証施設)

どちらにもオンライン開催あり  
会場での発表内容はEBSプラットフォーム経由として配信いたします。  
リアルタイム配信、リアルタイムアンケートもオンラインでも受け付けます。

内閣府 | 国土交通省 | 愛知県 | 静岡県 | 岐阜県 | 名古屋圏 | 国土交通省 | TFCO

会場へ各イベントのご参加には事前予約が必要です  
お名前・メールアドレス・参加希望のセッションIDを登録ください (3/23-26日 20時)  
<https://sip-adus-showcase.com>



ようこそ、自動運転社会の構築へ！  
自動運転の実用化に向けて、標準化による技術開発、さまざまな地域で事業者や自治体等の参加も期待実験等に努んでいます。  
自動運転技術やサービスのショーケースをぜひご覧ください。

SIP 第2期 自動運転 (システムとサービスの構築)  
中間成果発表会  
SIP自動運転が導く自動運転の実用化に向けた最新の研究成果を分かりやすく紹介します。研究の成果が実用化された自動運転の発展をぜひご覧ください。

● 安全性の向上と自動運転  
● 社会受容性の醸成  
● 自動運転の社会実装  
● 地域自動運転リミット

社会受容性シンポジウム  
地域自動運転サービスの開発、対する政府、業界の取り組みを紹介し、自治体や関係事業者が協力して「自分のまち」で自動運転を走らせる、を実現するために役立つ「情報」を伝えます。

地域自動運転リミット  
地域の社会的課題解決や、持続可能な公共交通システムの実現に向け、自動運転に期待される役割や課題について、各自治体や関係事業者が参加し、リアルタイムで議論を交わすパネルディスカッションを中心に向き合います。

会場アクセス Access  
● TFTビル西館  
● TFCO  
● 会場案内

お問い合わせ  
お問い合わせ先: 株式会社電通名鉄コミュニケーションズ  
〒466-8501 愛知県名古屋市中区東区東三軒又四  
〒466-8501 愛知県名古屋市中区東区東三軒又四  
〒466-8501 愛知県名古屋市中区東区東三軒又四

- ・イベント名： 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） 未来を変える自動運転ショーケース～SIP第2期自動運転中間成果発表会
- ・実施日時： 2021年3月25日(木) 10:00～13:00 メディア事前取材  
シンポジウム・サミット参加者特別内覧会  
13:00～17:00 一般公開  
2021年3月26日(金) 10:00～17:00 一般公開
- ・実施場所： 東京ファッションタウンビル(TFT) ホール1000
- ・実施目的： SIP自動運転が進める自動運転の実用化に向けた最新の研究成果を分かりやすく展示し研究の成果が現実化された自動運転の現在地を体験いただく。
- ・参加方法： 会場参加、オンライン参加
- ・入場料： 無料
- ・参加者数： 合計1,097名（会場参加者+オンライン参加者+オンラインガイドツアー参加者）

※オンラインガイドツアー参加者は必ずしもオンライン参加者に含まれてはいないため、延べ人数として加算

## 会場参加者数

	メディア	一般来場者	関係者	サミット内覧会	説明員	計
25日(木)	12	67	29	53	45	206
26日(金)	7	89	11		46	153
計	19	156	40	53	91	359

## オンライン参加者数

	登録者数
25日(木)	397
26日(金)	175
計	572

## ガイドツアー参加者数（会場分は会場参加者数の内数）

	会場	オンライン	計
25日(木)	30	68	98
26日(金)	46	98	144
計	76	166	242

## メディア掲載実績

レスポンス、cliccar、carview、日刊工業新聞、NEXT MOBILITY、Yahooニュース（転載）等

## ・会場における展示構成

### 【ウェルカムゾーン（Society5.0と自動運転）】

自動運転社会の実現を通して目指すSociety5.0の社会像と、SIP自動運転が進める取り組みの概要についてご紹介。

### 【01 自動運転社会の実現を目指す技術】

インフラ協調型自動運転の実現に向けた東京臨海部実証実験を中心とした交通環境情報の構築、仮想空間における自動運転車の安全性評価環境の構築、車両へのサイバー攻撃に対する侵入検知システムの調査研究などについての展示

### 【02 自動運転の社会実装】

過疎化が進む中山間地域における自動運転移動サービスの社会実装に向けた実証実験と持続可能なビジネスモデルの検討に関する展示。また、自動運転の普及拡大を見据え、交通環境に関する地理系データを多用途に展開するためのポータルサイトの構築についての展示

### 【03人と親しむ自動運転】

自動運転車や普及が進む運転支援車について人が習得すべき知識や効果的な教育方法の検討や、視野障がい者への高度な運転支援システムの有効性検証等を通して、すべての人が安全・安心に移動できる社会に関する展示

### 【04 社会を見据えたSIP自動運転】

自動運転社会の実現のため、SIP自動運転が推進する社会に受け入れてもらうための市民への情報発信や、産学官連携の推進、海外との連携活動に関する展示

## ・オンライン展示会

インターネットからでも参加を可能にするため、オンラインWebサイトを構築した。会場とほぼ同様のコンテンツを閲覧できる環境とした。また、閲覧者が任意の楽しみ方をできるように様々な導線を用意することで目的のコンテンツへの誘引方法を工夫した。

### 【閲覧登録】

まず、入口で初回閲覧時に新規閲覧登録として簡単な情報入力をお願いしパスワードの発行を行った（登録時にメールで閲覧用URLとパスワードを送付）。

### 【3Dウォークスルー】

来場できない方に対し、できるだけオンラインで臨場感を体験していただくため、マターポート社のWebアプリケーションを利用し会場に酷似した3D体験空間を構築した。実際の会場を3D対応カメラで撮影し、会場同様のコンテンツを視認できるほか、展示会場を回遊するような疑似体験を可能とした。

### 【キーワード検索&マップ】

閲覧者が目的の展示内容を絞り込むことができるよう、事前に取り込んだ展示情報の検索を可能にした。また展示情報は会場マップとも紐づけることで俯瞰的な閲覧も可能にした。

### 【動画視聴】

Webからの参加者に対してより理解が得られるように、会場で展示されている動画に編集を施した。また、前日、当日の会場の状況を伝える動画も制作しサイトにアップすることで、会場内コンテンツの展示概要や見どころなどを発信した。

### 【他のコンテンツとの関係】

参加者が閲覧したコンテンツの下部には関連するキーワードの掲示、また閲覧情報に関連する記事を表示することで興味のあるコンテンツを自動的に提案する機能も追加した。

## ・アンケートの結果

### 【回答者像】

回答数128件

男性91%女性9%

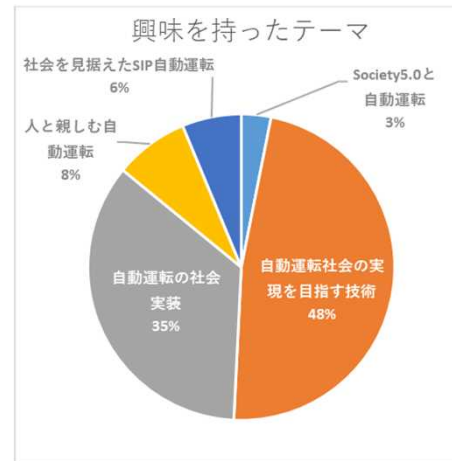
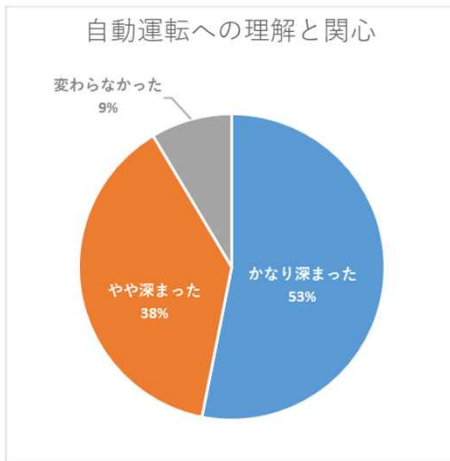
20代	30代	40代	50代	60代
4%	12%	30%	31%	23%

運転免許証98%が現在保有、自家用車82%が現在保有

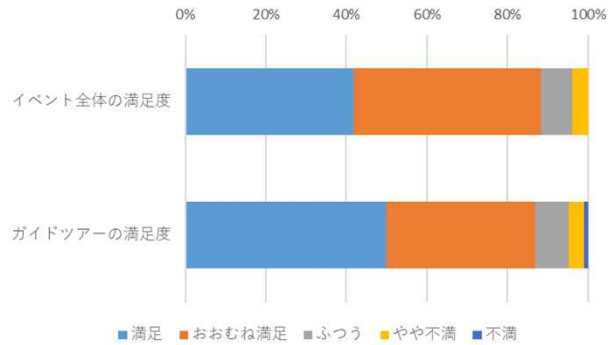
運転頻度はほぼ毎日から週3・4日が32%、週1～月数日が54%

### 【集計結果（抜粋）】

イベント参加後の自動運転への理解と関心は「かなり」と「やや」を合わせて90%以上で深まった。また興味を持って見られたテーマは技術に関するゾーンと社会実装に関するゾーンであった。

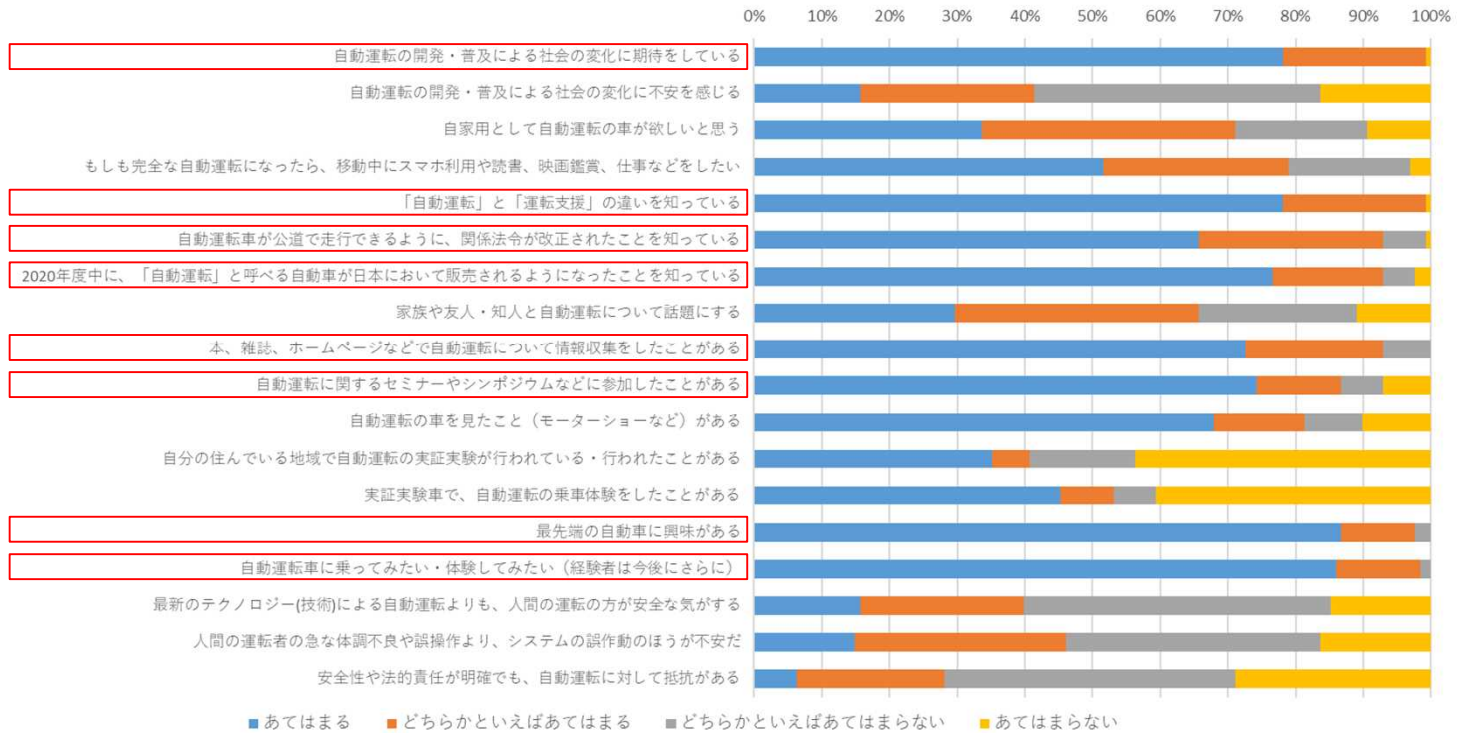


### イベントとガイドツアーの満足度



満足度に関してはイベント全体についてもガイドツアーについても高く、「満足」「おおむね満足」を合わせて90%に近い結果となった（参加していない人を除く）。自動運転車や自動運転社会への態度では、自動運転に対するポジティブな態度とともに、基礎知識や関心の高さが示された。

### 自動運転車や自動運転社会への態度





## 2) 株式会社住商アビーム自動車総合研究所受託分

### 目次

1. 調査の背景と目的
2. 調査の構成・内容
3. 本年度のプロジェクトの実施内容
4. イベント開催実績
5. 総括

# 1. 調査の背景と目的

## 背景

### 自動運転技術の社会実装に向けた社会的受容性の醸成

- 我が国は高齢化する過疎地での移動手段の欠如や物流業界のドライバー不足等の社会的課題先進国で、自動運転による物流／移動サービス事業化が求められている。
- 社会的受容性醸成は自動運転技術の社会実装の最重要課題の1つであり、一般市民・地方自治体関係者・交通事業者等との対話とその発信を通じ、過信・不信の払拭、正しい理解を促す必要がある。

## 目的

### 地域社会との対話の強化による市民との協力関係構築

- 一般市民参加のダイアログ形式のミーティングを中心に、多様な立場の市民に向けた情報発信や対話を通じ、市民の自律的な協力を引き出すような関係構築につなげる。

### 地域・事業者間の横連携強化による社会実装へ向けた動きの促進

- 実証実験を通じ見えてきた社会実装課題について、関係府省や地域、事業者間で共有し、連携して対応する為、実証実験に取り組んでいる自治体や事業者により共有・討議する場を設け、これをオンラインでの視聴環境の提供を含め広く一般に公開することで、更なる社会的受容性の醸成を図る。

## 2. 調査の構成・内容

### 1) 市民ダイアログ 概要

- 対象地域：群馬県前橋市
- 日時：2021年1月27日（水） 13:00～16:30
- 実施形式：オンラインミーティング（SIP関係者は住友商事（株）本社会議室にて参加）
- テーマ：まちのありたい姿と自動運転

### 2) 地域自動運転サミット 概要

- 日時・場所：2021年3月25日(木) 14:50～17:30 TOC有明WESTホール
- 実施形式：オンラインとリアルハイブリッド形式でのディスカッション
  - 各地域からの登壇者：web会議システム（Zoom）にてリモート参加
  - 各事業者からの登壇者、SIP関係者、一般の観覧者：TOC有明にてリアル参加
  - オンラインの観覧者：YouTube Liveにてリモート参加
- テーマ：未来を変える自動運転ショーケース～産学官オールジャパン体制における自動運転の現在地～地域の社会的課題解決や、持続可能な公共交通システムの実現に向け、自動運転に期待される役割や現状の課題を、実証実験に取り組んでいる自治体や事業者により共有・討議
- 来場者：会場への来場者105名、オンライン視聴者数：556名

### 3. 本年度のプロジェクトの実施内容

- 本年度は、地域での市民ダイアログ 1 回と、地域自動運転サミット 1 回の、計 2 回イベントを開催した。

#### 1) 市民ダイアログ

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として緊急事態宣言が発令され、コロナ禍前には想定できなかったようなスピードで、世の中のリモート対応環境整備が進んだこともあり、web会議システムを活用したオンラインでの市民ダイアログを1回実施した。

#### 2) 地域自動運転サミット

自動運転技術に関する実証実験が全国各地で進められている中、自動運転技術により得られる便益や効用だけでなく、実証実験を行うことで見えてきた社会実装に向けた課題について、関係府省や地域、事業者間で共有し、連携して対応することで、より効率的・効果的に対応できると思われることから、実証実験に取り組んでいる自治体や事業者間の横連携強化を目指し、リアルとオンラインでの討議を融合させたハイブリッド形式での市民ダイアログを1回開催した。

## 4. イベント開催実績

	第1回：市民ダイアログ	第2回：地域自動運転サミット
開催日時	2021年1月27日（水） 13:00～16:30	2021年3月25日（木） 14:50～17:30
場所	オンラインミーティング（SIP関係者は(株)住友商事本社）	TOC有明WESTホール
モデレーター・司会	SIP-adus 推進委員会構成員 岩貞るみこ氏	SIP-adus 推進委員会構成員 岩貞るみこ氏
テーマ	まちのありたい姿と自動運転	未来を変える自動運転ショーケース～産学官オールジャパン体制における自動運転の現在地～
登壇者・参加者	前橋市民15名 小木津武樹氏：群馬大学准教授 南雲貞人氏：前橋市役所 政策部 交通政策課 副主幹 大口敬氏：SIP自動運転サービス実装推進WG主査 有本建男氏：SIP自動運転・サブ・プログラムディレクター 清水和夫氏：SIP自動運転 推進委員会構成員 岩貞るみこ氏：SIP自動運転 推進委員会構成員(司会兼) 石井昌道氏：SIP自動運転 推進委員会構成員	内閣府： 三ツ林副大臣 経済産業省：江島副大臣 国土交通省：大西副大臣(渡辺官房審議官による代読) SIP自動運転推進委員会プログラムディレクター 葛巻 清吾 島根県飯南町 塚原 隆昭町長【事前収録】 福井県永平寺町 河合 永充町長【リモート登壇】 秋田県上小阿仁村 小林 悦次村長【事前収録】 沖縄県北谷町 野国 昌春町長【リモート登壇】 滋賀県東近江市 小椋 正清市長【事前収録】、他
来場者・アンケート	—	会場来場者数：105名 オンライン視聴者数：556名
メディア掲載	2件（上毛新聞、交通毎日新聞）	3件（交通毎日新聞、レスポンス、Merkmal）

## 4. イベント開催実績

### 4-1. 市民ダイアログ：会場の様子

- 多様な立場の市民が集まり、まちのありたい姿と自動運転の活用について活発な議論を行った。



# 4. イベント開催実績

## 4-2. 市民ダイアログ：グラフィックレコーディング

■ 討議のファシリテーションを目的に、グラフィックレコーディングによる対話内容の可視化を行った。

### 日常生活や移動で、より住みやすい前橋市とは？ 自動運転はどの役に立つ？

**😊 自動運転は楽しい？**  
 「人間よりも安全安心と思う」  
 「小さい乗り物なと手軽に利用したい」

**😡 自動運転は怖い？**  
 「海外の事故はあるが導入しながら改善して」  
 「乗取られたり情報の不安はある」  
 「いざと言う時、人がいないのは大丈夫？」

**どうやって 住み良い前橋 にしていくのだろうか？**  
 分散と集約でできる  
 エリアも形成して役割を分ける

**実証実験の認知**  
 不安を取り除くために...  
 「知ったら参加したい！」

非日常の経路を ルートパターン化  
 郊外ではない所を 集約し連携  
 人が集まる場所を つくる、かんがえる

悪循環の脱却  
 土地再開発  
 計画に頼る  
 住みよくなり始める

発信 → 参加 → 理解 → 安心

課題 実証 改善

Graphic Recording by 伊藤間 彩記

Q3. 日常生活や移動の面でより住みやすい前橋市とは？

アメリカ(スーベルト)  
 10代でも車を運転できる。

「やるせやないか」  
 市民が声をあげろ!

前橋のライフスタイル、あわせた提案を

主要な場所が 変え 赤屋は住居で主要なのは 街の回遊をすずめる

「ハルトコニアの」  
 かけ橋に 自動運転車云

Q4. 自動運転車技術が導入されると日常生活のどの面で役立つだろうか。逆に不安や心配な点は何があるか。

「まちなか空回IC」

車利用前提

高齢者にはよそ  
 タクシーは高  
 公共交通は限

テラポッドの交通網は 漏れている。

「若い人は 乗りたくない」

「モビリティサービス視点で考えると、まちなかでは...」

「隣接地域と一帯を 群馬中心にエリアで...」

「今うちから取り組んでい前橋市は、将来に対して大きな強みを持つ。」

## 4. イベント開催実績

### 4-3. 市民ダイアログ：メディアを通じた情報発信

- 開催結果を各種メディアを通じて情報発信し、社会的受容性の醸成を図った。

#### 上毛新聞（1月28日付）

### 自動運転 在り方探る

#### オンラインで意見交換



#### 前橋

内閣府は27日、自動運転社会の在り方などについて意見を交わす「市民ダイアログ」をオンラインで開き、国の担当者や前橋市民ら約20人が、ビデオ会議システムを活用して話し合ったII写真。

自動運転技術の実用化と普及を

目指す国の「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」自動運転」の担当者、大口敬さんは「（自動運転の実用化には）技術・法制度・社会的受容といった課題を産官学で解決することが必要」と説明。群馬大次世代モビリティ社会実装研究センターと前橋市交通政策課の担当者は、上毛電鉄中央前橋駅-JR前橋駅間で行われている自動運転バス実証実験など市の取り組みを紹介した。

後半は、学生や主婦、交通事業所職員らが意見交換。「免許返納後は生活しにくいのが、今のバスは不便」「子育ては車の移動が多く親の時間ロスにつながる」といった声は、今後の国や市の取り組みに活用されるという。

市民ダイアログは、自動運転の理解向上のため、実証実験を進める自治体を中心に開いている。

#### 交通毎日新聞（2月1日付）

### 前橋市で「市民ダイアログ」

#### 自動運転をテーマに意見交換

国家プロジェクトの戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の1つ「第2期自動運転」プログラムの関係者や群馬県前橋市民らによる「市民ダイアログ」が1月27日オンライン開催され、身近な移動の課題や自動運転への期待などについて語り合った。

市民ダイアログは市民との意見交換を通して、自動運転への理解を深めてもらうこと、同プログラムに関連する調査を受託している住商アビーム自動車総合研究所が実施した。

このほか前橋市役所交通政策課の南雲貞人副支幹が2月15、28日（水曜）と木曜は除く）に実施する自動運転バスの実証実験について紹介した。

今回の実験はこれまでの実証実験での課題を踏まえ、5G通信技術の活用や顔認証技術の検証などを主なテーマに取り組む方針だ。その後市民との意見交換が行われた。参加したのは運転免許返納者とその家族、公共交通や自転車を利用して通学している中高生、バスなどを利用して通院しているお年寄り、中心市街地の商工業者など様々。

参加者らは「市民の日常生活や社会の課題解決に自動運転はこう役立つかを主テーマに、自動運転時代に向けての期待や不安などを話していた。



## 4. イベント開催実績

### 4-4. 地域自動運転サミット：会場の様子

- 各登壇者によるプレゼンの後、パネルディスカッションが行われ、ご来場者からの質問等に対しても回答した。



# 4. イベント開催実績

## 4-5. 地域自動運転サミット：グラフィックレコーディング

■ グラフィックレコーディングによる対話内容の可視化を行った。

2021年3月25日 TOC有明コンベンションホールWEST  
地域自動運転サミット  
パネルディスカッション:第1部  
全国の課題  
全国各地から、5箇所の自治体  
自動運転の取り組み課題を議論  
子ども・高齢化  
観光モデル  
地域資源再発見  
人材育成

未来を変える自動運転ショーケース SIP  
ディスカッション、Q&A  
Q. サステナブルな運営もどう可能にする?  
移動手段以外の活用  
身近に感じてもらおう  
観光ツアー お買物ツアー 体験会  
自動運転との新たな接点に  
NEW TOUCH POINT  
「一庄懸命な大人たち」を見た  
興味を持つ子どもたち  
大人が自動走行を  
愛する社会は実現可能か  
by小学6年生

Q. 無人の良さ・有人の良さ  
Q. ルート設定の苦労は?  
Q. うらの自治体もやりました!

各社の取り組み  
自動運転の取り組み  
自動運転モビリティによる事業  
24時間自動運転バスの実現にも達成  
JPN Taxisと信託実証実験  
西日本鉄道株式会社  
みちのりHD  
株式会社ネオZMP  
BOLDLY株式会社  
株式会社ティアフォー

パネルディスカッション  
Q. 地域の不動産価値は上がる?  
Q. 無人の事故が不安という声はあり得るか?  
Q. 物流支援ロボット  
空巻の荷物も支援?  
Q. ナビ取得について  
Q. 技術領域の難しいところは?  
社会的課題  
自動運転は歩行者と歩む  
持続可能な検証をきっかけとして、日本の成長に貢献したい。  
世化 時代 地域  
境界を越えよう!

Graphic Recording by: 関美穂子

# 4. イベント開催実績

## 4-6. 地域自動運転サミット：メディアを通じた情報発信

### レスポンス（3月30日付）

ホーム > 自動車 アクション > ITS > 記事

2021年3月30日 (水) 16:40:09

#### 自動運転をめざす公共交通システムが抱える課題…SIP地域サミット



国家的プロジェクトである戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の第2期自動運転では、3月25日～26日の2日間にかけて“未来を変える自動運転ショーケース”を開催。同時開催された「地域自動運転サミット」の最後のプログラムを紹介したい。

#### 安全性を高めるため、社会インフラを整備することで対応した西鉄とみちのり

そのプログラムは、「次世代公共交通システム」の自動運転車両を運用する事業者が意見交換をするディスカッションの場として設定された。討論には自動運転サービスの実用化に向けた取り組みを進めている事業者として、みちのりホールディングス、西日本鉄道、ティアフォー、BOLDLY、ZMPから各代表者が出席。国産モーターシャープリスト清水和夫氏の進行の下、自動運転サービスの実用化に係る課題等話し合った。

最初に報告したのが西日本鉄道。昨年10月22日から26日間にわたって、北九州空港と、鉄道駅や港湾部の事業所、住宅地などを結ぶ交通網の確保を目的に、中型自動運転バスの実証実験を行った。実験では一日6往復、計308往復を運行し、2592人が乗車した。実験のポイントは大きく2つあり、一つは見通しが悪い大規模交差点にカメラとLi-DARを設置し、AIが画像処理して危険を検知するシステム。もう一つが事前にバーチャルシミュレーションを使って車両の挙動や事故が起こりうるケースを確認するものだ。



### Merkmal（4月3日付）

Merkmal・MeaS・まちづくり・自動運転社会の鍵を握るのは子供たち？社会受容性獲得にあの手この手

#### 自動運転社会の鍵を握るのは子供たち？社会受容性獲得にあの手この手

2021.4.3 Merkmal編集部

Twitter Facebook BI Bookmark LinkedIn Pocket Mail COPY Print

キーワード：自動運転、バス、ウィラー、ZMP、ホンダ、西鉄、BOLDLY

もう技術的にはいつでも走らせられる——運転手無人の自動運転バスがついに日本でも走り出した。その節目で行われた国主催のシンポジウムでは、社会受容性の獲得に向けて各地域の工夫が報告された。

#### 社会受容性のカギは「見た目」と「子供」？



まだ自動運転ではないが、ウィラーが東京の池袋で運行している小型の電気バス「IKEBUS（イケバス）」も、園庭のない保育園の子供たちを公園まで送迎する役割を担っている。その公園に訪れてみると、子供たちがイケバスに集まり、「イーケーバースー！」の掛け声で集合写真を撮る光景に遭遇した。

ウィラーによると「日常茶飯事ですよ」とのこと。村瀬社長はイケバスを自動運転化したい意向を示しているが、この子たちはまさに「自動運転ネイティブ」になりそうだ。



## 5. 総括

### 1) 市民ダイアログ（前橋市）での主な意見

自家用車への依存度が高いがゆえか、ラストマイル交通やデマンド交通への期待度も高いことがわかった。また、自動運転バス等の導入によって、自転車などの交通事故を減らすことへ期待する意見が多かった。一方で、複数のシニア参加者からは、自動運転バス車内で体調不良になった場合に救護する運転手がないことへの不安が語られた。また、コンパクトシティへの期待や中心市街地への人の呼び込みについての要望が多く聞かれた。

### 2) 地域自動運転サミットでの主な意見

地域自動運転サミットに参加した自治体からは、サービス面の向上、地域社会からの受容、事業としての継続性・収益性といった点が主な課題として挙げられた。また、同じく事業者からは、地域市民の理解・協力と、オーナーシップが得られれば、受容されるだけでなく、実装に向けたスピードが加速されることが共通の意見として提示された。

### 3) コロナ禍時代に対応した新しい形の市民ダイアログ基礎作り

オンラインとリアルのハイブリッド形式で実施した地域自動運転サミットでは、会場への来場者数100名余りに対し、オンライン視聴者数は600名近くとなり、また首都圏以外からの参加者が、全体の半数以上を占めた。地理的な面でも参加人数の面でも、デジタル化によるタッチポイントの拡大という恩恵を享受できた。

従来から課題として提起されている市民ダイアログ企画・運営のパッケージ化による再現性・効率性の向上と、市民との接点拡充に向け、リモート運営経験・ノウハウを積んだチームによる円滑な推進と、リモートのメリットを活かした参加人数の拡大を図りつつ、次年度では企画・運営ノウハウのマニュアル化等を推進し、従来以上に市民とのコミュニケーションが確保できる持続可能な仕組み作りを取り進める。